

平成27年度 全国学力・学習状況調査及び佐賀県学習状況調査結果の分析について

平成27年4月21日に中学1・2年生を対象に「佐賀県学習状況調査」、中学3年生を対象に「全国学力・学習状況調査」を実施しました。

関係教科及び学習・生活に関する調査結果を分析し、改善に向けた取り組み事項をお知らせします。今後、さらに生徒の学力向上を図っていききたいと考えています。

1 1年生の傾向と指導事項

	分析結果・課題把握	改善に向けた具体的取り組み事項
国語	全体の正答率は、おおむね達成の到達基準を上回ってはいるものの、県の正答率より5ポイント近く低い結果であった。観点別に見ても、「話す・聞く」「書く」「読む」「知識・理解・技能」すべての観点で県平均を下回っている。特に「書く」は県平均よりマイナス5.8ポイント、「読む」は県平均よりマイナス8ポイントと差が大きい。	「読むこと」では、特に説明文的文章を扱う際に、段落ごとの関連や全体の論理の構成を意識しながら読むことや、接続詞に着目してつながりを考えたり、段落ごとに要約をして流れをつかむ学習を授業の中に取り入れていく。同時に「正しく表現すること」を意識して小感想や要旨のまとめ、自分の意見を文章にまとめてから発表するなどをを行い、文章に対する苦手意識を取り除き、読解力の向上を目指したい。
数学	全体の正答率で見ると、県平均をやや下回るものの、おおむね達成の到達基準は上回る結果であった。観点別では、「知識・理解」は県平均を上回るものの、「考え方」は県平均を下回り、「技能」についてもやや下回っていた。また、意識調査においては「授業の内容はよく分かる」という設問について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計が91.3%であり、県をやや上回る結果となっている。	「技能」については、県平均をやや下回る結果であり、この結果を向上させるために、問題集やプリントを用いて家庭学習の習慣化を図り、学習内容の定着につなげていきたい。「考え方」についても、授業の中で日常生活と関連づけた内容を取り扱ったり、根拠を明らかにして考えていく力を身につけさせたりしていきたい。 また、ティームティーチング授業を実施する中で質問や疑問に素早く対応し、個に応じた丁寧な指導をしていきたい。

2 2年生の傾向と指導事項

	分析結果・課題把握	改善に向けた具体的取り組み事項
国語	全体での正答率は県平均をやや上回り、観点別でも全ての観点で県平均とほぼ同じか上回る成績である。特に「書く」は県平均を6.9ポイント上回り、十分達成レベルの71.0%を大きく上回る79.8%であった。しかし、「読む」に関しては県平均とほぼ同じで、他の観点に比して正答率がやや低くなっている。 意識調査を見ると、「読書は好きだ」の設問で「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計が71.2%と県を下回っている。	昨年度（1年次）の同様の調査からの変化を見ると、全体でも観点別でも向上が見られる。特に「書く」に関しては昨年度に比べて向上著しい成績であった。「相手に分かりやすく表現すること」を意識した小感想や要旨のまとめを書くなどの学習を継続的に行ってきた成果が出ていると見られるが、意識調査ではまだ県より低いので、今後も続けていきたい。また、「読む」に関しては昨年度同様の成績であるので、段落ごとの関連・論理の構成を意識しながら読むことや、段落ごとに要約をして文章全体の流れをつかむ学習を継続し、説明文等論理的な文章に対する苦手感を取り除いていきたい。
数学	全体での正答率を見ると、県平均をやや下回るものの、おおむね達成の到達基準は上回る成績であった。観点別では、「見方や考え方」は県平均を上回ったが、「技能」「知識・理解」は県平均を下回った。また、意識調査においては「授業の内容はよく分かる」という設問について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計が87.4%であり、県を上回る結果となっている。	昨年度（1年次）の同様の調査においても、「見方や考え方」は県平均を上回る結果であり、問題をとらえ、数学的に解決していこうという力を備えていると考えられる。ただ、他の観点と比べると低い結果となっており、今後は日常生活と数学の関わりを理解させ、活かしていくような課題設定を行い、授業に取り組んでいきたい。また、「技能」「知識・理解」は県平均を下回っており、特に「技能」については問題集やプリントを用いて家庭での復習をさせ、学習内容の定着を図りたい。

3 3年生の傾向と指導事項

	分析結果・課題把握	改善に向けた具体的取り組み事項
国語	全体の正答率は県平均を上回り、十分達成のレベルに達する成績であった。また、観点別に見ても、全ての観点で県平均を上回り、「話す・聞く」「読む」「知識・理解・技能」の3つの観点においては十分達成のレベルに達している。しかしその中で「書く」は県平均よりも高いものの、十分達成のレベルにあと一歩達していない。	昨年度（2年次）の結果から比較すると、どの観点でも向上が見られる。「書く」活動においては、意識調査でも「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しい」という設問で「そう思う」が県平均の43.4%を大きく上回る58.0%となっており、文章を書くことへの抵抗感がかかなり高いと思われるので、自らの文章表現に段落のつながり、主張を读者に理解してもらうための構成の工夫など学んだことを応用するような学習を多く行っていきたい。
数学	全体での正答率を見ると、県平均を上回るものの、十分達成の到達基準には届かない成績であった。観点別では、「技能」「知識・理解」は県平均を上回ったが、「見方や考え方」は県平均を下回っていた。また、意識調査においては「授業の内容はよく分かる」という設問について、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計が70.4%であり、県をやや下回る結果となっている。	昨年度の同様の調査（2年次12月）においても、「見方や考え方」は県平均を下回る結果であり、問題をとらえ、数学的に解決していこうという力が定着していないと考えられる。今後は日常生活と数学の関わりを理解させ、活かしていくような課題設定を行い、授業に取り組んでいきたい。また、「技能」「知識・理解」は県平均を上回っており、更に向上させていきたい。特に「技能」については数学の基礎力となるため、問題集やプリントを用いて復習を徹底させ、学習内容の定着を図りたい。
理科	全体の正答率は、県平均をやや下回る結果となった。観点別では「技能」を問う設問は、県とほぼ同じであった。しかし、「知識・理解」及び「思考・表現」を問う設問は県を大きく下回った。内容・領域別では「物理的領域」について重点的指導が必要なことが明らかになった。また、意識調査においては「授業内容はよく分かる」という設問について、「当てはまる」と答えた生徒は県平均を上回るが、「理科の勉強は好きだ」という設問は下回る結果となっている。	まずは観察や実験を充実させ、楽しい理科の授業を展開していく。さらに、科学的な思考力や表現力を育成するために、生徒が課題を解決する探究的学習過程の充実を図ってきたい。例えば、観察・実験の計画・実施・発表・レポート作成などの学習活動を工夫し充実させる。また、個に応じたきめ細かな指導と評価を充実させ、全学年で継続的に取り組んでいきたい。具体的には基礎・基本の用語とその意味の再確認を進めていきたい。また、観察・実験の意義と有用性をキャリア教育の視点で生徒に実感させていきたい。